

令和4年度 キッズハウスよいちにおける自己点検評価結果

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びに公表が努力義務とされています。これに基づきキッズハウスよいちの保育の質の向上を図る為に自己評価を実施しました。

保育園としての自己評価について、評価項目、視点方法及び評価結果を下記の通り公表し、評価の結果を踏まえ今後の保育内容の充実に繋げていきたいと思っております。評価はA,B,C,Dの4段階評価とします。

A:充分達成されている B:達成されている C:取り組んでいるが成果が充分でない D:取り組みが不十分

項目	内 容		総合評価
第1章 総則 教育・保育の基本			
基本 保 育 の	1	園の保育目標、保育方針を理解している	A
	2	「保育指針」を読み、その内容を理解している	B
	3	乳幼児期の教育及び保育は、人格形成の基礎を培う重要なものであることを理解している	A
	4	乳幼児期の教育及び保育で、生涯にわたる「生きる力」の基礎が培われることを理解している	A
	5	乳幼児期の教育及び保育は、子どもの最善の利益を考慮してすすめることを理解している	A
配 慮 の	6	一日の生活の連続性やリズムの多様性に配慮して保育を展開している	A
	7	子どもとの温かなやり取りやスキンシップを、常に心がけている	A
	8	子ども一人一人に、わかりやすい温かな言葉で、おだやかに話しかけている	A
	9	「だめ」「いけません」など、制止する言葉を不用意に用いないようにしている	B
	10	「できない」「やって」「いや」などと言ってくる時、その都度気持ちを受け止めて対応している	A
指 導 計 画 作 成 と 評 価	11	登園時、子どもの状況に応じて、抱いたり、やさしく声をかけたりしている	A
	12	指導計画や記録には、いつも養護面の配慮が記載されている	A
	13	指導計画に基づいて、環境を構成している	B
	14	子どもの姿を、家庭での生活を踏まえ理解している	A
	15	子どもの興味・関心や意欲に合わせて活動ができるように、指導計画を作成している	B
	16	自分の保育について反省し・評価し、それを次の指導計画の作成に生かしている	A
	17	子どもの活動の展開に合わせて、援助の仕方が具体的に指導計画に書き込まれている	A
子 ど も の 発 達	18	日々の保育記録が、子どもの発達援助に必要であることを知っている	A
	19	日々の保育記録を、子ども一人一人の発達理解に生かしている	B
	20	子どもの発達は、豊かな心情、意欲、態度をを身につけ、新たな能力を獲得していく過程であることを理解している	A
	21	子どもと生活や遊びを共にする中で、一人一人の心身の状態を把握している	B
	22	子どもは様々な環境との相互作用により発達していくことを理解している	A
	23	子どもが興味や関心を示し、主体的に関わる環境を用意している	B
	24	子どもが、興味や関心をもったものに対して自分から関わろうとしている姿を認めたり励ましたりしている	A

「保育所保育指針」を読み保育の基本は理解している。実践に繋がるよう、章ごと園内研修で確認していきたい。子ども一人ひとりに寄り添い発達の理解に努めているが援助の仕方に試行錯誤する

事が多い。子ども達がやりたい遊びを受け止め環境作りや肯定的な言葉かけ等、具体的な援助の仕方を今後も課題とし園内研修でスキルアップしていく。

第2章 「ねらい」及び「内容」

ねらい 及び 内容	25	温かい触れ合いのなかで、心と体の発達を促すように努めている	A
	26	子どもが自ら体を動かす機会を十分に確保している	A
	27	一人一人の子どもに、いつでもやさしく対応するように努めている	A
	28	子どもが自分の気持ちを表したときには、その気持ちを理解し受け止めようとしている	A
	29	つまむ、たたく、ひっぱるなど、子どもの感覚の発達を促すような玩具を用意している	A
	30	子どもの探索意欲を満たすような活動を取り入れている	B
1 歳以上 3 歳未満 児の 保育に 関する ねらい 及び 内容	31	安定感をもって生活できるように受容している	A
	32	体を動かす機会を十分に確保し、子どもが自分から動かそうとする意欲が育つようにしている	B
	33	食事、排泄、睡眠、衣服の着脱、身の回りの清潔などは子ども一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で子どもが自分で行おうとする気持ちを尊重して対応している	A
	34	基本的な生活習慣の形成にあたっては、家庭での生活経験に配慮し、家庭との適切な連携の下で行っている	B
	35	子どもの気持ちを尊重し、温かく見守り、愛情豊かに、応答的に関わっている	A
	36	思い通りにいかないときなど、子どもの気持ちを受け止めるようにしている	A
	37	玩具、絵本、遊具などに興味を持ち、それを使った遊びを楽しめるような環境を用意している	B
	38	感覚の発達が促されるように、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切な玩具などを選んでいく	B
	39	自分で言葉を使おうとしたときに、応答的な関わりをしたり話しかけたり、間違っても、ありのまま受け止めたりしている	A
	40	「おはよう」など心のこもった日常の挨拶をしている	A
	41	保育者などを仲立ちとして、生活や遊びのなかで友だちとの言葉のやり取りを楽しめるようにしている	A
	42	「取ったらダメ」「貸してあげなさい」など単に行動を制止して子どもの気持ちを抑えるのではなく「どうしたの?」「困ったね」など思いを察し、共感して受け止めている	A
	43	歌や簡単な手遊びに慣れ親しみ口ずさんだり、歌に合わせて楽しんで体を動かすことができるようにしている	B
	44	水、砂、土、紙、粘土など、様々な素材に触れることができるよう、環境を整えている	B
事配 項 慮	45	一人一人の子どもが、眠いときに眠ることができる場所を用意している	A
	46	リズムに合わせて手足や体を動かせるように、環境に配慮している	A

子どもを温かく受け入れ一人ひとりに寄り添い気持ちを受け止める姿勢は全職員心がける事が出来ている。肯定的な言葉のかけ方は園内研修で積み重ねてきているので意識して出来ているが場面により難しさを感じる時もある。個々に

合わせた言葉かけの仕方、声をかけるタイミング等丁寧な援助について今後も課題として学んでいきたい。また、子どもが夢中になって遊べる環境にB評価をつける職員が多いのでクラス的环境について意見を出し合い実践に繋げていく。

第3章 健康及び安全

健康支援	47	子どもの日々の健康状態を把握し、それを一人一人の保育に生かしている	A
	48	衣服の着脱や食事などについて、子ども一人で見守りながら援助をしている	A
	49	園での活動の様子や発達の状況などを、保護者に伝えている	A
食育	50	子どもが落ち着いて食事・おやつを楽しめるように配慮している	A
	51	その日の給食の食べ具合などを、必要に応じて保護者に知らせている	A
	52	子どもの体調に応じて、食事の量を調節するなどの配慮をしている	A
環境	53	室内の温度や湿度、換気をチェックしている	A
	54	保護者の気持ちに配慮し、送迎時に安心できるような関わりをもてるよう心がけている	A
の災害への備え	55	地震、洪水などの際の、園から避難場所への避難経路を把握している	A
	56	避難訓練を振り返り、うまくいった点や反省点を記録に残している	A

いろいろな感染防止に目を向け室内換気、消毒温度湿度等健康管理を全職員で理解し防止対策

に努める事が出来た。引き続き子ども達の体調について把握し職員で共有していく。

第4章 子育て支援

保護者に対する支援	57	子どもについて、保育について、家庭での様子について共通理解を得るよう努めている	B
	58	送迎の際に、保護者と言葉を交わしたり、連絡帳で情報を交換したりするようしている	A
	59	生活に必要な習慣が身につくよう、家庭との連携に努めている	A
	60	保護者との情報交換の内容を、必要に応じて記録している	A
	61	保護者からの相談内容をなどを、自分一人の問題にしないで園全体で受け止めようとしている	A
地域における子育て支援	62	地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている	A
	63	地域における子育て支援のための園の取り組みを理解している	B

保育園での生活や遊びの様子を連絡帳やクラスだより、送迎時の口頭で伝える事が出来るよう対応してきた。遅番保育で担任外の職員も子ども達と関わる為、子どもの怪我について全職員

で把握出来ていない時があった。事故防止等確実に共有出来るよう徹底して取り組んでいきたい。引き続き笑顔で元気に挨拶し、保護者との信頼関係の築きを大切に支援していく。

第5章 職員の資質向上

職員の 資質 向上	64	他の人の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる	B
	65	「保育指針」に、園の自己評価が努力義務などとして位置づけられているのを知っている	A
	66	自己評価など、自分の保育を定期的に振り返る機会をもっている	B
	67	自己評価などで課題を見つけ、その課題の解決のために計画的に自己研鑽している	B
	68	職務上、知り得たプライバシーに関する情報秘密を守っている	A
	69	子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をしている	A
	70	園に関することについて、みだりにまたは不正確なままに他へ話したりしない	A
	71	クラス的环境構成などについてお互いに素直に意見交換している	B
	72	子どもの発達と内面理解についてなど保育に関わる様々な知識を習得したり技能の向上に努めている	A
	73	趣味・人とかかわりなど、うるおいのある生活を心がけている	B
74	子どもと会話をしたり、遊んだりすることが好きである	A	

担任間では保育について意見を出し合う事が出来ているが、園内研修の場で意見を言うことに遠慮してしまう事がありB評価が改善されない。

今後は職員同士声をかけ合う事を意識し、何でも言い合える関係性の中で情報共有し保育を進めていく事に取り組んでいく。

総合評価

子ども一人ひとりに寄り添い丁寧な関わりはどの職員も出来ている。クラスの様子や発達を伝え合った事で保育士の援助について確認する事が出来た。保育室の環境設定、事故報告等全職員で共有出来ていない時があった。次年度は、全職員で声

をかけ合い情報を共有する事、子ども達がやりたい遊びに満足出来る環境、保育士の言葉かけや援助の仕方を園内研修で取り組み、保育の質の向上に努めていく。